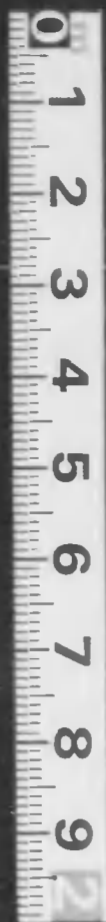


情 報 局 編 輯

五 月 廿 六 日 第 二 百 七 十 三 號

寫 眞 週 報

昭和十八年五月二十六日 星期一 第三十七百二第 日六廿月五



われらも共に撃滅戦へ

海軍記念日

日本海に父が仰いだ乙旗を
 けふの決戦太平洋に
 仰ぐは強い父の血継いだ
 その子君だ
 その孫君だ
 海の子君の生き甲斐は
 濤と碎ける勲だ

海軍記念日に寄す

いざ決戦のとき来る

敵を一撃に撃滅するのが、海上における決戦である。日本海軍の決戦はまさに決戦の代表的なものであった。しかし、日本海軍から大東亞戦争に至る時間の隔りは、海上決戦の様相を全く新たなものとした

今日も決戦、明日も決戦、事實この決戦の總和が今日の戦争の勝負を左右する決戦なのである。開戦以来のハワイ、マレー沖海戦をはじめその後相次いで行はれた諸海戦は、各海戦のどの一つをとつてみても、その規模において、その戦果において、一大海上決戦でないものはない。この間、敵米英海軍に與へた損害については、主力艦の撃沈十三隻、航空母艦十一隻、巡洋艦五十二隻、撃沈破砕数は四百隻以上といふ尤大な数に上り、これをバルチック艦隊の總トン數に比較すれば、實に數倍に上る。この外に航空機の撃墜破四千五百機以上がある。しかも戦争はまだこれからである

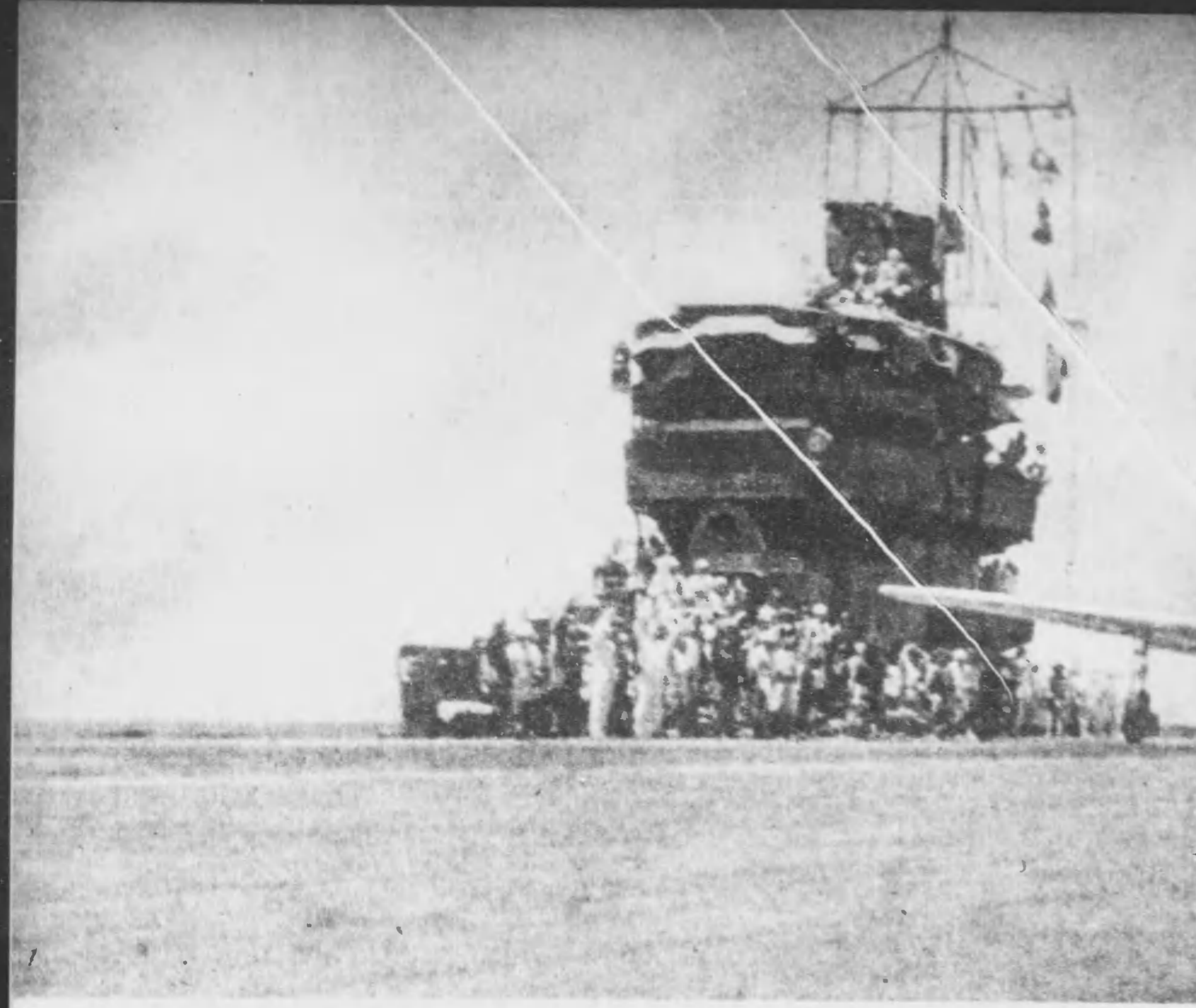
惨敗に次ぐ惨敗にも拘はらず敵米國は執拗にも反攻の機を窺つてゐる。北方のわがアリューシャン基地、南太平洋第一線基地への反復空襲は敵ながら文字通り死闘の一語に盡きる。而して、今日の戦争において航空兵力が主兵力的地位に上り、大なる機動力と攻撃力をもつて制海權に先んずる制空權を握るに至つたことは、新しい海戦の性格である。されば敵米國が開戦以來蒙つた海上兵力の甚大な損耗を、差し當り短時に大量生産できる航空兵力をもつて補はんとしてゐることは容易に想像し得る。生産目標十二万五千といふ飛行機、艦船の改造も加へた六十隻の空母建造といひ、この間の消息を物語つてゐる

ルーズヴェルトのいふわが本土空襲、或ひは太平洋艦隊司令長官ニミッツの航空兵力による島から島への呼號など、今や敵がその誇る生産力を唯一の頼みに、建艦と飛行機増産に狂奔しつゝ、對日總反攻を企圖する時、われ一億同胞は皇國の興廢をかけた日露戦時を回想し、前線將兵の心を心とし、各戦域においては、全力を傾倒して生産の決戦にも打ち勝たねばならない

全速力で敵艦隊の撃滅に向ふわが堂々たる水雷艦隊

「時の立札」は他へ轉載
 その他に御利用下さい

ばせ号呼を母空の百敵 んせ應て以を百二我



航空機の價値が増大したことよつて航空母艦の使命はいよゝ重要となつた。空母はその巨艦に多數の各種飛行機を搭載し、大速力で洋上を行動する移動飛行場である。この移動飛行場は艦隊戦に参加して敵主力に爆撃、雷撃を敢行、或ひは敵航空隊と雌雄を決し、或ひは長驅敵國沿岸に潜行して、敵の根據地や重要都市を空襲するなど、渡洋作戦にはなくてはならぬものである。

1 「戦果を待つてぞ」敵呼の聲も、もうきこえない。機は力強く發艦する。
2 ちすれ行く南海の夕日を浴びて、航空母艦から機は大空に舞け上がる。
3 潮風にブル、とふるひたつて、荒鷲は武者振ひする。
撮影 牧島海軍報道班員

空の戦場へ 馳せ参るよ

土浦海軍航空隊



空は僕達の世界だ。と、はつきり言ひ切れるのは少年。君達だけだ。

ハワイに、マライ沖に、西南太平洋に、世界を驚倒させた赫々の戦果の陰に幾多の武勳をうち立てた少年飛行兵出身の海鷲。その海鷲を見と呼び、その武勳を継げる君達だけが、空は僕達の世界だと、はつきりと言ひ切れるのだ。

必殺の気合をもつて敵機に躍りかゝつていつた兄背の國志、一機一撃を目ざして敵空母を刺しちかへ。兄背の盡忠、それを継ぐのは、純真な少年諸君を指してはないのだ。世界に冠絶する備材を自在に駆使する優秀な技術、これこそ若い君達の智力に期待するものだ。

大空にゆく門はひろく、極めて簡單だ。君達の決意一つで、海軍獨特の完備した教育施設が君達を迎へてくれるのだ。幾多の兄背が身をまもつて開いた突撃路を越えて、米本土攻撃の任務は君達の双翼にかゝつてゐる。

少年よ、来れ、そして選ばれた戦士とあれ。



「十七歳のオーストラリア」の飛行機に乗る少年。若くし海軍と飛行機に乗る少年の志をいかに、少年飛行兵の数は大空のやまに明るく輝かす。



知 だ熱心の飛行機 だ義勇の運動は日今。うよし強勉でもを意注の心細もに上の心。るあも軍先たしほなを障故へさか中級の國。だそこばれたつきが訓練たしりかつし。



のついでが體身かつか固になもあで。開のとにうそさでも強健いしか弱になんこかに開。るへかち見も弱弱げへいさ。だのたつな。たつたにう。



うのり酔い深たれはそさに練習いし。日一。ッモンハ。だ飛行機 だ空 も乗るれ。に。天で。れ。なと。飛。機。と。く。で。ま。の。を。け。れ。

海の若鷲となるには



海軍航空隊の若鷲となるには、まず海軍航空隊に入隊し、飛行機に乗る資格を得る必要がある。そのためには、まず海軍航空隊の募集要項をよく読み、自分の条件が満たされているかどうかを確認する必要がある。

甲種飛行機科練習生

年齢 昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。

募集は年二回行はれて、年一回、昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。

募集は年二回行はれて、年一回、昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。

募集は年二回行はれて、年一回、昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。

乙種飛行機科練習生

力さへあればよいので、學歷には制限はありません。第二次検査は第一次に合格した者の中から選抜し、領守府所定の海軍航空隊に集め、留泊して適性検査、口頭試験を行った上で、いよいよ最後の検査が行われます。

なほ一次、二次とも志願のための旅費、出陣、歸郷の旅費は市町村から徴兵旅費が支給されるので、手続、志願の仕方は甲種と同様です。

年齢 入隊の年の十二月一日を基準として、満十四年八月月以上二十歳未満の者です。昭和十八年入隊志願者は、大正十三年十二月三日から昭和十五年四月一日までに生れた者です。

手続 志願の仕方は甲種と同様です。募集は年二回行はれて、年一回、昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。

募集は年二回行はれて、年一回、昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。

募集は年二回行はれて、年一回、昭和十八年に志願できる者は、入隊の年の十二月一日に満十五歳以上二十歳未満の者です。昭和十八年十二月三日から昭和十九年十二月二日までに生れた者です。



霞ヶ浦海軍航空隊

空の戦場へ馳せ参じよ



初飛行以来いくらにもならないのだが、離陸も旋回飛行もどろりかやれるやうになつた。單獨飛行を目ざして愛機は今、地を這つて飛びたつ

三機、五機、十機、橙色機雲の練習機は今日、大空へ！ 左上

直線飛行ももうまくなつた。手をとつて指導した生徒達の飛行ぶりを注視する教官の頬にも快心の微笑が浮かぶ

飛行作業の始めに、終りに、與へられる指導、講評、教官殿の言葉は簡潔だが、一言一句ゆるがせにできぬことばかりだ。しかも甚父のやうな温かな響きさへふくんでゐる。かうした指導こそ、自分達にはとつてこの上なき幸なのだ 左下



を終るころにはいつれも、身も心も習熟や技能等も、立派な海軍軍人として成長してゐるので

この期間中に甲種は入隊三月で上等飛行兵に、半年で飛行兵長といふやうに進級し、乙種も二年後には飛行兵長となります

さて、前期の飛行科練習生の修業を終了すると、愈々特等飛行術練習生として、共に學び、共に鍛へた兄弟以上の同期生と別れ、操縦—霞ヶ浦、筑波、水上—廣島、備前—大井、鹿嶋といふやうに全国各地にある航空隊に入隊し、甲、乙種とも一年間艦上主眼とする操縦術、偵察術等の技能、航空術に關する高等の學術を教授されるのです

さあ、これでいよいよ一人前の海の荒鷲が輝かしく誕生しました。行く手は何處もいふまでもありません、西南太平洋か、アリューシャンか、否、米本土への空の第一線です。雲をぬけて、大君の御指と放つた幾多先賢勇士の遺志の跡をつぎ、それをこえて世界の空をわが荒鷲の翼で蔽ふのです

戦争の現段階は一人でも多くの海鷲を求めてゐます。若い純真な魂と頑健な肉體をもつた少年諸君、すべてを大君のために捧げ、空へ雄飛して下さい。海鷲となるの道はこんなにも廣いのです

はじめて飛行服をかにつけた時の感傷。いつまでも脱がうとしないで、子供のやうに胸を隠らせてゐたのだ



何處へゆくのか分らない。自滅法に於て、その中に指揮官機がぐつと突入すべし、自分も眞似をして、この行つた風なやつです。ですから、捕まると命が惜しいと見えて、盛んに何をしても出す。これは、かゝるといふ。また何んでも喋るんだが、最後にどくどく助かると分ると、何も喋らなくなる。唯、イギリスとアメリカの遊びは少しはありますね。それはイギリス人は傲慢だが、アメリカ人は軽い氣持でスポーツか何かやつてゐるといふ風です。

甲中佐 開戦後、速成で来たといふやつが多いやうです。

記者 いまやつは、どうしたものでせう。

甲中佐 それは鉄後でゐて、訓練に當つてゐるんでせう。一戦、飛行家の養成は、普通の學校の教育のやうに簡單に一人の先生で生徒の方は幾人になつてもいいといふのは違つて、一人に一人の手をとつて教へなければならぬといふわけだから、一學に師として置くわけにいかない。生徒が信になれば、教官も倍必要になるわけだ。だから、いまやつは鉄後で養成に當つてゐるんでせう。

記者 敵の様子はどうでせう。

乙少佐 相當本腰になつて來てゐるやうです。敵は防禦に重點を置いてゐるので、格闘や敵はないから、速力のみ速くしてゐると思ひました。もうその時は馬が見えないところまでいつてゐたのですが、やがやく馬を見つけて還りました。司令が、もう出るなと怒られました。が、燃料が一杯々々のところまで出たので實に危ないところでした。

記者 敵が盛んに宣傳してゐるエアーコングレス(アト・シヨルス)はどんな風ですか。

甲中佐 乙兵曹と云ふやつは、敵の毒丸には相當怖られますね。當らないんですが、毒丸の鳴りや機體がガブ、ガブ、ガブと格闘戦はやらなかつたか。

乙兵曹 やりませんでした。

甲中佐 これらが向ふと逃げていつてしまふといふ風で、格闘にならばこつちのものですよ。ですから對等の勢ならば、見苦しい引掛け方はしませんよ。敵に戦意を思はせれば、その大部分をやつて返つて來る。

量ば馬鹿にならぬ

甲中佐 とにかく、前線の苦勞を知つて貰ふことも大切なことだ。大に代々の國民に出来なだけなくさ大輸空關係方面に入つて貰ふことだ。それは、これは僕の等々の編輯には、右、左、中央の決断にその責任を、必ず負つて貰ふことだ。必殺のやつを、いゝ組合せだ。

逃げることを考へてゐる。

甲中佐 どうしてもかういつた防禦物(毒子機)に力を入れば、これに相當重量がかかるから、何處かでその重量を落とすわけだ。だから戰闘能力は落ちるのは當然だ。アメリカあたりは大量の物の流れを生産してゐるが、人などもさうらしい。さういつた點は、質では問題にならないがアメリカの量といふ問題は相當馬鹿にならぬと思ふ。

格闘になればこつちのもの

丁大尉 いったい、敵の襲撃は面白いやうに定期的なやつて來る。必ず一晩置きとか、規則的にやつて來るんでせう。そこでこれを徹底的に叩いてやる。さうすると、それに應じてやつて來ない。だから、生漕い方法ではない。

丙大尉 要するに、徹底的にやつけないといけません。

丁大尉 私どもが最初の頃、盛んに襲撃を受けた一つの理由は、敵が日本軍の技術を知らなかつたこともあるわけですね。さうして、その頃はやつつたから、徹底的にこつちが制空權を保持してゐて、隊形を組んで敵飛行場の上空を、分ぐる飛んで歸つて來る。直に愉快な徹底的な襲撃、戦つた。

乙少佐 概して敵は海軍の方が手強いですね。ボーイングはどうか。

甲中佐 それは、こゝにもその出身の人がありますが、豫備航空兵隊といふのが、大學高専生によつて設置されてゐまして、幾らか設備し官があるわけなんです。もうそんな手強い時代ぢやないんでせう。

記者 今まで、それでも幾らかあつたのですか。

甲中佐 それは、こゝにもその出身の人がありますが、豫備航空兵隊といふのが、大學高専生によつて設置されてゐまして、幾らか設備し官があるわけなんです。もうそんな手強い時代ぢやないんでせう。

記者 どんな學校の方ですか。

甲中佐 あらゆる學校の人があつたよ。美術學校とか高等農林のやうな變つた學校の人や、文科系統の學校の人もあるよ。

記者 適性不適性といふことがあつてゐるんでせう。

甲中佐 そんなことはありませんよ。餘程身體の悪い者は別です。普通の身體の者ならば上手下手はありますが、大丈夫です。飛行機の方は一ヶ月に千臺でも二千臺でも生産できませうが、人の問題はさうはいきませぬから。

少年航空兵は陸軍よりは早く實施したのです。今はもう一期の途中は中絶になつてゐます。假りに三年達成に年月がかかると思へば、いま募集しても三年後でなければ使へないとい

だ。

甲兵曹 〇〇方面でしたが、朝きまつてやつて來るんでせう。こつちが哨戒に上つてゐる間は來ないが、降りるとやつて來る。そこで、飛行機のはは待機してゐた。〇分位で上りますから、よると或る日ボーイングが一機やつて來た。高度は千メートル位でした。そこで〇分くらゐを追つたわけですね。〇機でボーイング一機にかゝつたのですが、よほど近寄つたと思つても、〇メートルから〇メートル位離れてゐるんでせう。實に大きいよな。そこで、大型機をやる時には遙か向ふまで行つたと思つても直ぐ追つかれまうから、かなり先までいつて取つて返して丁度いい。相當にやつたのですが、敵も危ないと思つたのでせう。〇メートルくらゐに下がつた。そこで、攻撃がやりにくくなつた。直ぐ海面ですから、下に入ることが出来ないので、悠々と飛んでゐる。船に降つたので、接近しては〇分位射つた。するとさうさう下がつて海面〇メートル位まで下がつてしまつたので、なほ喰ひ下がつてゐると、別にどうといふこともないのですが、そのまゝ海面に突込んでしまつたわけですね。その時に感じたことは〇ミリの弾丸では餘り効き目がない、〇〇ミリの位のところがない。

ふわけですか。差當り必要な十八、十九、二十年に使へない。それぢや困りますよ。私はよく例に出しますが、海軍でやるのは日本力のときで、銃録の方は中學や専門學校邊りでやつて貰つて、地金の方は二千六百年の傳統がさうだ。それだから地金の方は申分ないんだから、銃録をしつかりやつて貰つて、そのときを海軍でやる、とかういふことにならなければいけません。

敵アメリカでは、卒業と同時に給金全部航空方面に探るといつたことをやつてゐます。まゝ正直にいつてアメリカと對等に對抗できるものは、人的資源ぐらゐなものなんだから、日本はこの人的資源をうまく利用してやつてゆかないといけません。思ふ。質の點は、量も馬鹿に出来ない問題です。だから、要するに自轉車に乗れる者ならば飛行機に乗ることが出来るといつてもよいです。特別に不器用で何をやつても出来ないとはいふものは別ですが、大部分の者は平氣で出来ませう。だから身體の丈夫な者は飛行家になつて皇國のために御奉公をする。國をまけて一臺でも餘計に飛行機を造つて敵米英に當り、一人でも餘計に優秀な飛行士になつて敵米英を屠る。この心構へ、この氣魄を私は特に青少年に強く要する次第です。五月十四日



空母三隻、大巡二隻の周りを更に駆逐艦九隻で固め我が基地を命はんとする敵米空母の輪陣を昨十七年二月二十日、ソロモン群島東方に物の見事に叩きつけたあの戦果の背後には、最大進出距離を遙かに超え、しかも敵戦艦の妨害とスロウとの困難な状況の中から、正確適切な報告を行き、遂には燃料不足のため歸還せず、哨戒隊の重責を果たして南海に散った松江、坂井兩海軍生還を賜さぬい必死の武勳があつた

また、同じ十七年一月十八日夕、オホ湾口で、トビはきの水上機が敵双発機六機と激しい合戦、一機を撃墜したが、機長、操縦員は戦死し、重臣の電信兵が自ら操縦桿を握つて墜落を救つたばかりか、救助にきた艦に、頭置した機のプロットの上から、血潮したる手旗信號で報告を送つた忠節があつた

陸軍部隊の進出の際に、米軍南洋艦隊を侵襲し、巡洋艦二隻、駆逐艦五隻、潜水艦十隻を撃沈したヌラバ方面護衛部隊や船団泊地進入後、奇襲せんとした米海軍潜水艦二隻を撃滅したバタビヤ方面護衛部隊の功績があつた

輝かしい戦果の背後には、必ず人知れぬ苦勞と努力がひそんでゐる。索敵に、對潜警戒に、日夜を分たぬ哨戒部隊、敵機の機銃掃射下に明らかもなく、マラリア蚊に攻められつゝ器材の轉把を離さぬ防空隊、高射砲隊等の言語に絶する苦勞のあることを更めて想ひ起さう

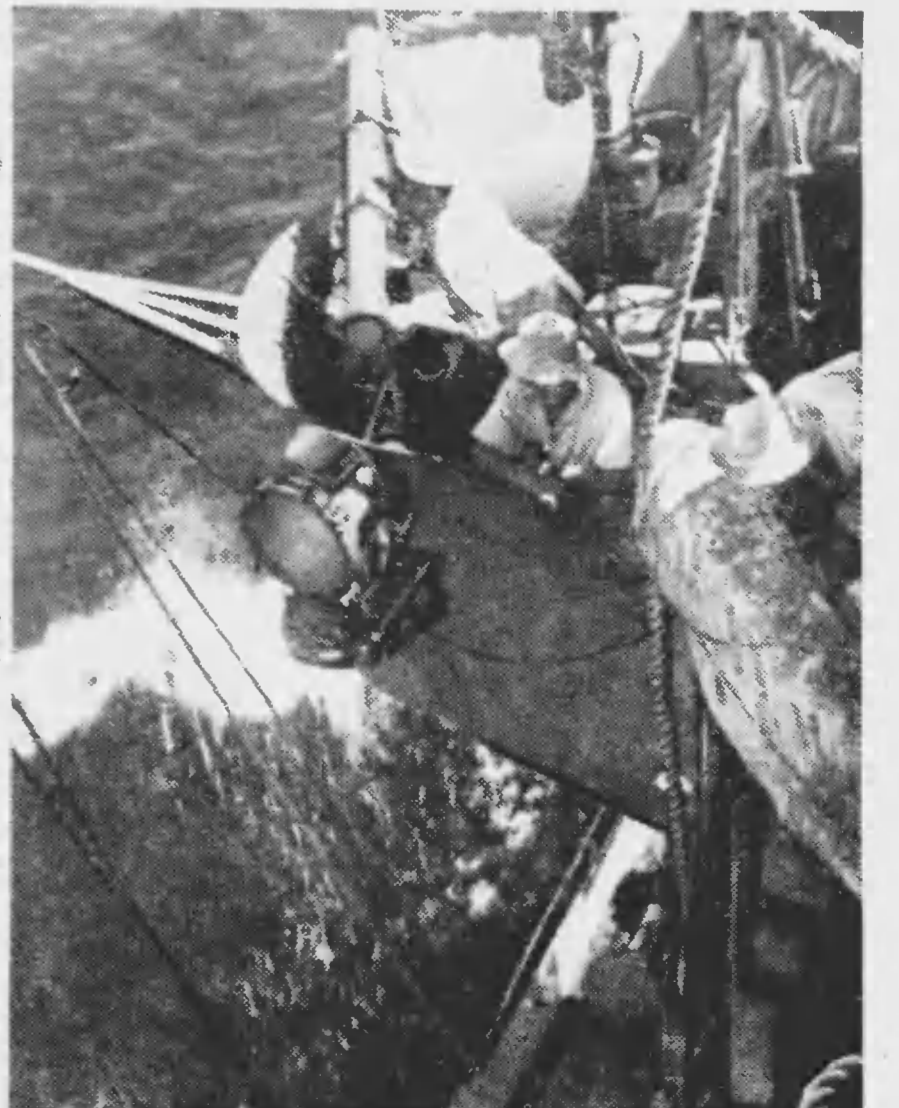


何處、迷はれど、我々の足は、必ず、我が國の土に、踏みつけよう

何處、迷はれど、我々の足は、必ず、我が國の土に、踏みつけよう

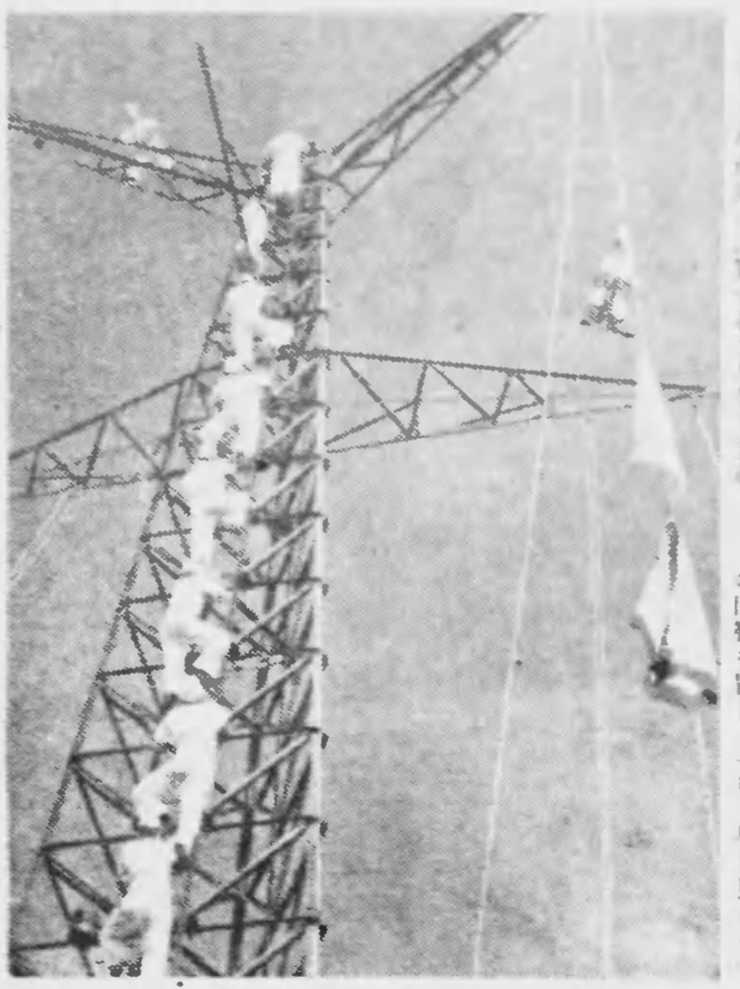
何處、迷はれど、我々の足は、必ず、我が國の土に、踏みつけよう

戦果の陰に乙の苦勞





海軍航海學校



この塔は、大なる風船球を乗せし、時
 刻を測るに用ひらる。塔の頂上には、
 大なる風船球を乗せし、時刻を測る
 に用ひらる。塔の頂上には、大なる
 風船球を乗せし、時刻を測るに用
 ひらる。塔の頂上には、大なる風船
 球を乗せし、時刻を測るに用ひら
 る。



艦橋作業 仰りく、揺れる艦の橋に出て、
 旗が切斷された時は、怒濤上でやらねばならぬ。
 艦橋作業 仰りく、揺れる艦の橋に出て、
 旗が切斷された時は、怒濤上でやらねばならぬ。
 艦橋作業 仰りく、揺れる艦の橋に出て、
 旗が切斷された時は、怒濤上でやらねばならぬ。

要の地帯にあり、或はまた全軍の
 事を行ふことには、容易な業
 ではない。しかもこの難事を見事や
 つつのけて、艦隊の第一因を得得
 するのは海軍の航海術である。
 海軍航海學校はその名の示すやう
 に、海軍の航海術の教育を施す學校
 であつて、小は潜水艦、驅逐艦か
 ら、大は陸奥、長門などの砲艦を動
 かす航海長は皆この學校の出身者で
 ある。また航海長の部下として働く
 信託員、操帆員もこゝでそれらの
 練習生として教育されてゐる。
 なお、海軍軍人は大砲や魚雷をう
 つ前に、先づつたれた艦乗りとなら
 ねばならないが、そのためには砲の
 構造や艦體甲板の手法、短艇器具
 の取扱などをよく知つておく必要が
 ある。かうした教育もまたこの學校
 の任務であつて、各艦でこれらを擔
 任する人に運用長があり、その部下
 となる練習生の練習生教育もこゝで
 行はれてゐる。



操帆員 オモイカージ、艦長の命令
 下、艦首は飛沫をあげてくつと進むの
 だ。操帆員は勿論射撃に、魚雷發射
 一掃大砲、まづ練習艦で訓練をうける
 練習生は、オモイカージ、艦長の命令
 下、艦首は飛沫をあげてくつと進むの
 だ。操帆員は勿論射撃に、魚雷發射
 一掃大砲、まづ練習艦で訓練をうける

月 六

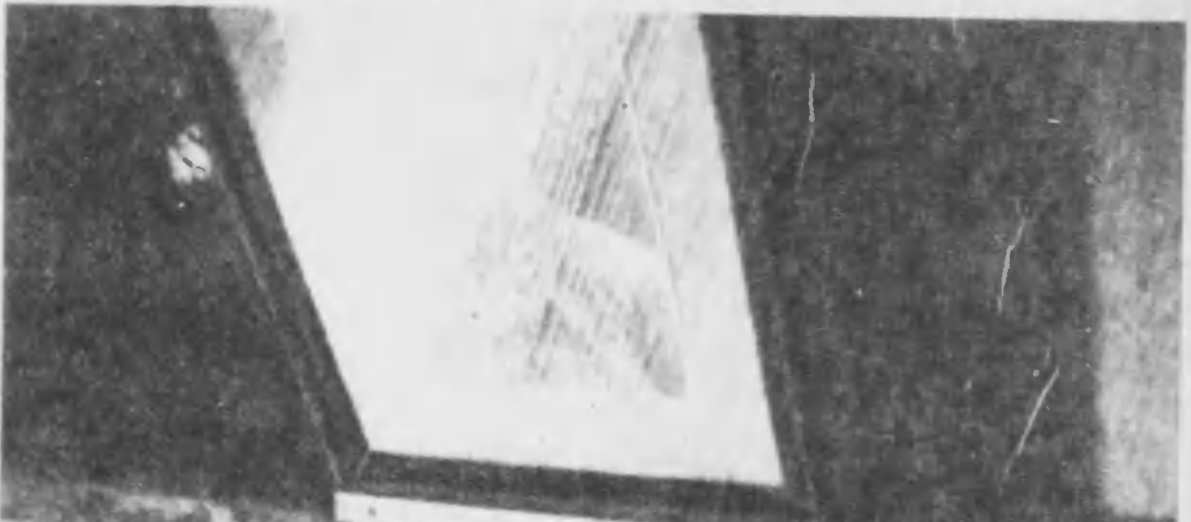
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

一日 第十二回彈丸切手賣
 出し
 七日まで 戦力増強安
 全強調週間
 八日 大詔奉讀日 國民皆
 勤て國貨を一掃しま
 せう
 十日 時の記念日
 航空局航空機操縦生
 募集本誌締切 詳細
 は全国郵便局へお問
 合せ下さい
 十五日 二百七十億貯蓄強調
 期間開始二ヶ月間

海軍の海に因る 日本第一の海軍村



⇨ これも乃木會の行事の一つ、労働會である。乃木大將は御自身労働をなされた。わたくし達もこの遺徳を身をもって體感しなければならぬ。けふは全校児童が家の土かけを行つてゐる。



⇨ 村の子供たちは軍艦の話など非常に好きだ。三等兵曹である花輪新治郎さん(四八)は、大正五年軍艦に入團した村出身志願兵の先導者である。野良から歸つてひまのある晩は、子供たちを公會堂に集めて、楽しかつた遠洋航海の話などをする。



⇨ 役場の吏員は助役の少尉をはじめ、村長、兵事係、軍人後援係の軍曹、収入役の伍長、學事係の兵長といふ正合に全部が軍人である。この村が軍人精神に満ちてゐることは、この一事によつてもうなづける。



今乃木會の創設者 乃木治英石氏

われこそ水漬く屍、と海軍の強者を志す海軍志願兵の数は年を逐つて激増してゐるが、昭和十六、十七年の兩年度における海軍志願兵の合格率(人口率)が横須賀鎮守府管下第一位、日本で第四位の海軍村、山梨縣中巨摩郡玉幡村は今年こそ陸海

日本一の榮譽めざして全村が張り切つてゐる。甲府から狭西電車に橋られて約二十五分、盆地の中央に位する玉幡村は戸數三百七十五戸、人口二千五百の小さな純農村である。二毛作の土地なのであらう、見渡す限りの耕地が一面で整つてぶされてゐる。峠道を通りながら、一體、この純農村が日本第四位の海軍村であるといふ因果關係は何處にあるのだらうといふ氣がした。

日本一の榮譽めざして全村が張り切つてゐる。甲府から狭西電車に橋られて約二十五分、盆地の中央に位する玉幡村は戸數三百七十五戸、人口二千五百の小さな純農村である。二毛作の土地なのであらう、見渡す限りの耕地が一面で整つてぶされてゐる。峠道を通りながら、一體、この純農村が日本第四位の海軍村であるといふ因果關係は何處にあるのだらうといふ氣がした。

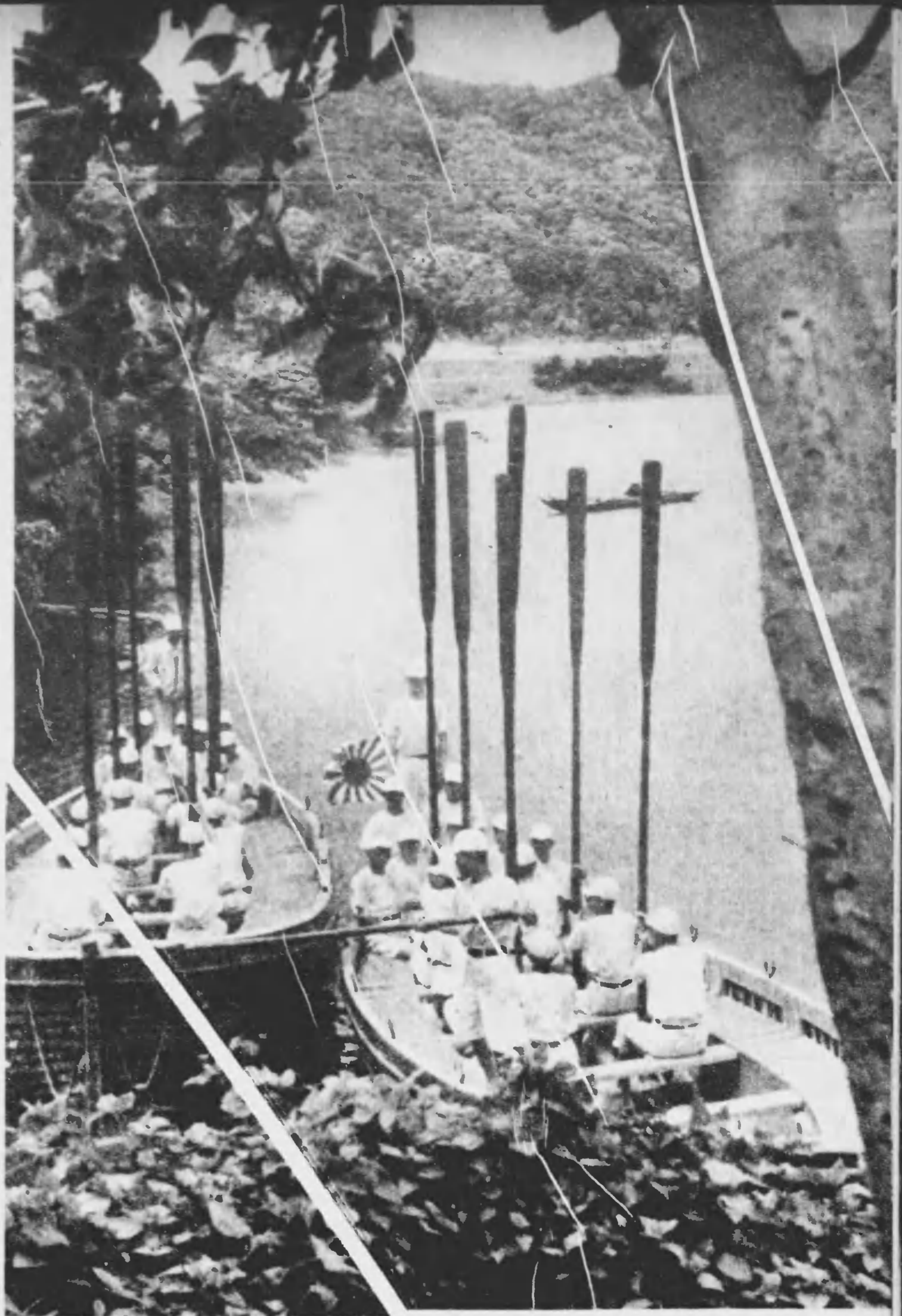


影射 林 忠彦

⇨ マスト上りは海へ行く離れが出来るだけいけぬ。青年學校生の村の者は武器に身を固め、火の見えるマスト(鐘楼子)に登るの練習だ。



⇨ けふは乃木會の日である。學童は早朝村の八幡神社に詣で饗祭を唱和した。なほこの日、少年團から青年團に入團する式が饗祭に行はれた。



「いざ、出陣だ、腕が折れても清きめくぞ」帝國海軍のねばりは復讐の腕に引継ぐ覚悟だ

するだに畏ききはみである
 盛り上る朝鮮臺灣の赤誠
 は、支那事變をきつかけに
 一尉強まつてきたので、昭
 和十三年には朝鮮、十七
 年には臺灣、それと陸
 軍特別志願兵制度が實施さ
 れたが、特に朝鮮に對して
 は、兵役法改正による徵集
 が明年度から行はれること
 になつてゐるが、海軍特
 別志願兵制度が實施され、
 豫備訓練は今年中に始めら
 れる快報が發表されたので、
 朝鮮臺灣同胞の感激は深い
 この豫備訓練とは、朝鮮
 臺灣では何んといつても風
 俗や習慣が異つてゐるため
 志願兵として入隊する前に
 或る期間必要な訓練を受け
 る譯で、従つて内地の志願
 兵にはこの制度はない。豫
 備訓練は今年中のあるのを待ちに
 待つて訓練をつけてゐた
 臺灣皇民奉公會の海洋訓練
 所では、この發表に、わつと
 歡聲をあげるとともに、そ
 の感激を訓練にと、今まで
 より一層の頑張りを誓つた



「兵願志別特軍海國帝は我」は體氣に肩を譽名の人島本だ人軍國帝を設立にです

水兵さんになれる 本島人の喜ぶ

朝鮮、臺灣に海軍特別志願兵制度實施

海に生きるためには、まづ水泳に上達することが肝腎だ。かつて海を捕れた本島人の噂を聞いて、僕は太平洋でも泳いで征かう

「敵艦ヲ轟沈セリ」潮風を振つた胸に受け艦橋に手旗信號を送る日はもうすぐだぞ

自分で喜びを直してみて改めて感じる母の恩「母さん、きつと、きつと立派な帝國軍人になります」

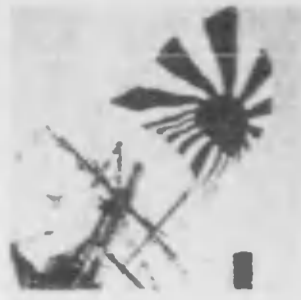


甲板洗ひも重要な日課の一つ。「エイ、エイ」元氣な聲を揃へ力をこめて



「こゝは何處か」もちろんハワイです、とさつと手を上げた訓練生は眞珠灣に散つた九軍神を思つて胸一杯だ



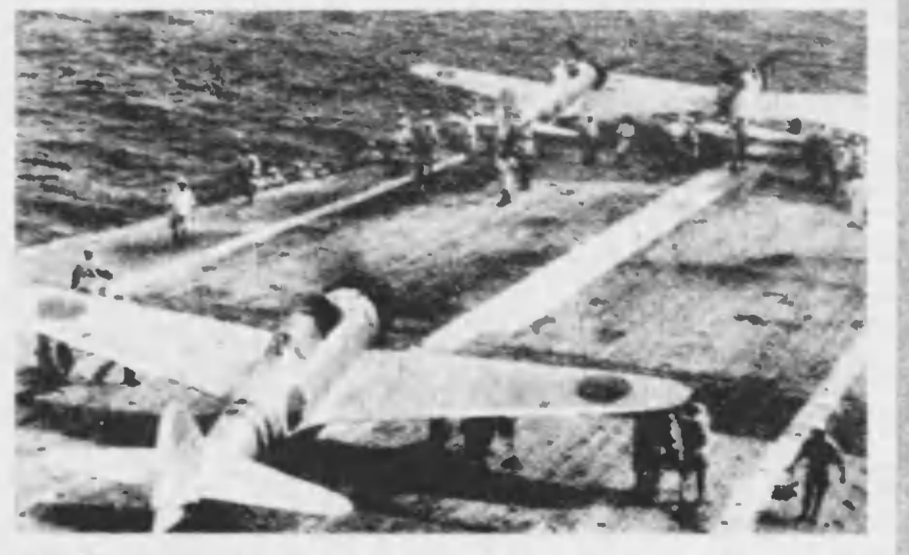
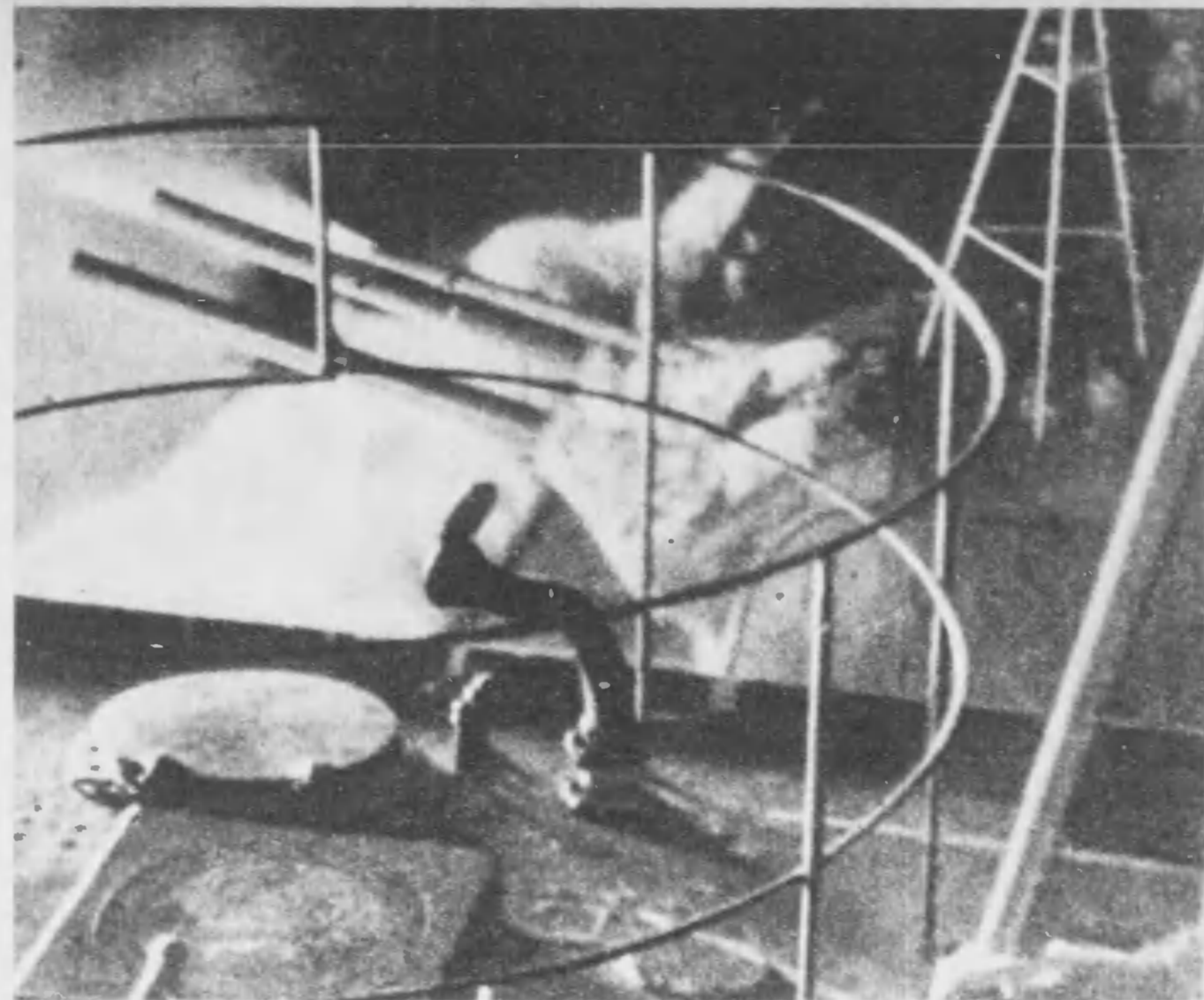


海軍戦記

海軍省監修 日本映画社製作

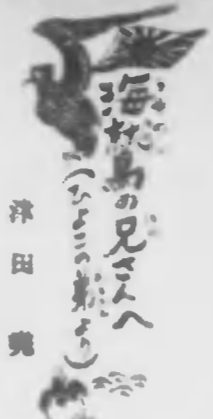
昨年五月以降戦艦十月に至る間、帝國海軍は、北は凍結のアリューシャンから南は炎熱のソロモンにいたる廣大な戦線に、雄渾極まりない作戦を展開し、赫赫の戦果を収めた。映畫『海軍戦記』は、この華々しい戦訓と勝利の記録であり、めざましい復興と建設の記録である。而して、その間あらゆる苦難を耐えて敵艦隊と建設の歩を進めるのが海軍將兵の姿がとらへられると共に、これに協力する原住民のありさま等が生き々と描き出され、一貫した意圖のもとに構成

編輯された戦記映畫として、極めて感銘深いものがある。國民はこの映畫を通じて、帝國海軍の神聖的精神の發露を見、その認識を更に一段と深めると共に、新たなる感服と信頼を捧げよう。文部省推薦映畫



★表紙
東になつて出ていといと、敵艦隊に満ちた海軍省が主力艦隊は、太平洋上に備として存在する
敵が主力艦隊十三隻を失つて海上兵力に致命的打撃をうけてゐるに拘はらず、わが主力艦隊の健在は、第三十八回海軍の光榮勝るものがある
海軍省 海軍省

海軍省の見聞



7 戦わしめ見さん、お元氣ですか。僕も元氣です。僕のライオン、とてもよく飛ぶやうになりました。昨日は二隻の船の中にびくとして沈んでしまふところでしたが、ボクが泳いでくればよかったです。お元氣です。



9 日本の軍艦がたつた一機、敵の十機も二十機もついでにたつた。日本は、敵の軍艦をたつた。日本は、敵の軍艦をたつた。日本は、敵の軍艦をたつた。

敵艦を撃つ



4 敵艦を撃つ。日本の軍艦、敵艦を撃つ。日本の軍艦、敵艦を撃つ。日本の軍艦、敵艦を撃つ。



5 見さんは今日も雨の空で、敵艦や敵の軍艦をほかん、とやうに思つておいでになることと思ひます。僕もつばな艦隊長になるために、一生けんめいからたを願つてます。歯がはりのけいこに願つてます。



6 おしむに、いいお守りを贈問袋の中に入れてあげます。これは軍艦のきつぷです。いっしょに持つてゐて、敵の軍艦を見つけたら、どうかケン／＼、ゴッパン（満腹）して下さい。では見さんの武運無事を祈ります。さやうなら。



大東亞戦争日誌

川石 介遠



1 独立



2 艦隊を民島 砲台を島比理



3 艦隊を民島 砲台を島比理



4 艦隊を民島 砲台を島比理



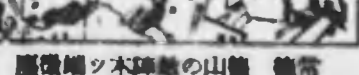
5 艦隊を民島 砲台を島比理



6 艦隊を民島 砲台を島比理



7 艦隊を民島 砲台を島比理



8 艦隊を民島 砲台を島比理

寫眞週報 昭和十八年五月廿六日 第百七十二號

蓄貯戰決



東海銀行

本店・名古屋市

寫眞週報 (禁轉載)

昭和十八年五月廿六日 印刷發行

情報局

東京市豊町一丁目

印刷局

内閣印刷局

東京市豊町一丁目

所 達 中	價 定
全國各地官報 販賣所 書店・驛賣店 新聞販賣店 寫眞材料店	<p>▲特大紙の場合は 其の都度御拂込 金より差額を中 受けます</p> <p>一部十錢 (送料一錢)</p> <p>外置郵送は依 る地域は送料 共一紙十九錢</p>

本誌を回覧に
本誌は目下新規申込
に感じかむてをりま
すから、函組や職場
で回覧するなど、出
来るだけ有効に御利
用下さい

前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様で、封紙
もひと紙封にして第
三種と明記すれば、
一紙一錢です

内閣印刷局印刷發行

(別紙郵送-A4郵便定額は33人の資本)